

大阪は文化都市を目指すべき



野村 育郎
なにわ名物開発研究会
代表幹事

なにわ名物開発研究会が設立されて10年になります。研究会には「異業種ネットワーク」というコンセプトのもと、さまざまな分野のメンバーが集まっています。個人資格もあれば、法人や団体としての入会も可能です。「大阪を元気にする」を旗印に、多様性を大切に、しなやかでのびやかで、そしてしたたかに活動できればと思います。引き続きしました。

私たちは、その設立趣旨に「地域の固有資源へのこだわり」を掲げました。それは「地域固有の文化、生活文化へのあくなき愛情」といってもいいでしょう。わずか数十年前まで、大阪のまちに、人々の暮らしに日常的に満ち満ちていたもの、そしていま私たちが失いかけているもの……

観光の分野でも、そんな「日常のありのままの生活文化」に触れる旅「コミュニティツーリズム」がこれからの主流となっていく。地域の人たちによってその土地独自の魅力ある観光資源を見つけたし「観光商品として創出」するビジネスは、大阪ならではの都市型コミュニティビジネスとして活性化のリード役を担うでしょう。

なにわ名物は、「おみやげ」だけではありません。人とのふれあい、地域独自の文化や芸能、商いやグルメ……路地の魅力や川を巡る遊覧船から見る都会の夕景色、ぶいたいちよう並木に見つめる季節の変化、元氣いっばいの大阪のおばちゃんも……戦後50年でおよそ5千万人の人口増加を経験してきた我が国が、これからかつて経験しなかった人口減少時代に突入します。ただ、人口が減るだけではなく、その構

成比にも注目しなければなりません。私と同様の「団塊世代」の動向がとりわけ気になります。この世代が、社会の第一線から退くのです。とりわけ、都市化が先進的に進んだ大阪はこの影響をいち早く受け止めます。それは、決してすべてが悲観的なシナリオとは限りません。

時代の大きな変化は、いままでも気づかなかつたこと、失っていたものを思い出させる大きなチャンスでもあるのです。

半世紀以上も前、焼け野原となった大阪の街を見渡して、織田作之助（作家）は言いました。「大阪は産業都市として発展するのではなく文化都市を目指すべき……」。近世、上方文化を生み、近代、モダンシティとして輝いていた大阪。わたしたちが、いま取り戻さなくてはならないものはなんでしょうか？

文／代表幹事
(株)せのや 野村育郎

なにわ名物開発研究会NEWS

<第19号>
2006年5月1日発行

発行
なにわ名物開発研究会
編集 広報部



QRコード
機種によっては読み取れない場合もございます。

●本部
大阪市中央区難波1-7-2
SENOYAビル3F
TEL・FAX (06) 6213-5554
<http://www.naniwa-meibutsu.com/>
●事務局（会議や諸事連絡）
大阪市中央区本町橋2-23
第七松屋ビル1231
TEL (06) 6947-5260
FAX (06) 6947-5254

デジタル文化都市・大阪をめざして

大阪府デジタルアーカイブ流通研究会 事務局
大阪府 企画室 課長補佐 家原 和男



大阪府域にある「図書館」や「博物館」などの所蔵品を、極めて高精細なデジタル画像として保存・蓄積（アーカイブ）する事業を推進すれば、貴重な文化財の情報を後世に残すことができる上、インターネットの利用によって広く多くの府民の目に触れることが可能となります。

しかし、実施するには多額の資金を必要とするため、民間等が文化財のデジタル画像を加工して新たな商品に活用する際に有償で貸し出し、得られた収益を更なるデジタルアーカイブや文化財の保護に役立てるといったしくみが必要です。

大阪府は「デジタルアーカイブ流通研究会」を立ち上げて、課題の整理や具体的な実証実験としてデジタル画像の商品化に対する評価・検証を実施しているところです。

今回、縁あって、新たな商品への利活用の事例検証をなにわ名物開発研究会で手伝っていました。我々行政にはない、ユニークな発想をお持ちの貴会での商品化に期待しております。

入会について

- 入会金■
10,000円（正会員）
5,000円（協力会員）
- 年会費■
36,000円（正会員）
12,000円（協力会員）

R100（古紙100%の再生紙を使用しています。）



お祓い神事&新年互例会

第一部は午後五時より難波八阪神社にて、お祓い神事が厳かに執り行われまし
た。この神事は年最初の恒例行事であり、
会員や家族のご多幸、また各企業の繁栄
を祈願するものです。

その後、会場を蓬莱パンチャンに移し、
第二部となる1月の月例会が大槻さんの
司会で進められました。続いて、山川さん
の司会進行のもと、新年互例会が始まり
ました。まずは石浜紅子様よりご祝辞を
頂き、財団法人大阪都市協会の東田雅勝
様による乾杯のご発声、和やかな歓談タ
イムとなりました。美味しい料理とお酒
で少しお腹が満たされたころ、「人間ピン
ゴ」が始まり、すっかりうち解けた参加者
の笑い声が会場に響きます。景品はみな
さんからの協賛品。金秀吉
監督から、「映画に主演す
る権利」まで飛び出しまし
た。楽しい時間は過ぎるの
が早く、あつという間に締
めの挨拶。当会の特別会員
である旭堂小南陵師匠に
よる大阪締めにより、本年
の新年互例会は閉幕とな
りました。



▲オブザーバーも多く、参加者数は過去最高を記録!



▲巨大な獅子舞台がある「難波八阪神社」。お祓い神事は、肅々と行われた



▲じゃんけんゲームの賞金を寄付する山川さん(右)。どう見ても、奪い取られているよう...

文／(株)長寿堂恵佳
山本佳明

大阪の中小企業は元気です

大阪にこんな元
気な会社が在るん
ですね。あらためて
元氣と勇氣を貰い
ました。「日本一
明るい経済新聞」の
発行人・竹原信夫代
表の明るい語り口で、
明るい会社や商品
を紹介していただ
きました。えっ、あ
の商品が大阪発初?
これも大阪発初?
ユニークなヒッ
ト商品や会社のオ
ンパレード。たとえ
ば、発光ダイオード
を使った「ワンタッ
チ灯明(拍手センサ
ー付)」や「電池お線
香」は、大阪人の実用感覚とユーモアセ
ンスがマッチした、全国向けヒット品で
す。大阪の中小・零細の「会社さん」の底力
を、再々認識させられました。



▲ゴルフクラブの「カラーグリップ」は、プロも愛用。「名入れ靴下」は独創性がウケて大ヒット。各商品の開発秘話も面白おかし披露され、皆は感心しながらも大笑

竹原氏が語る「元気な会社」とは、社長
が明るい、笑いが多い(絶えない)、泣か
ない(泣くのは子供でも出来る)。「社長
の心得」としては、意志を持って明るく
する、人のせいにならない、夢を持つ。そし
て、多くの会社を取材してきた竹原氏が
感じた「元気な会社の共通点」は、玄関先
がきれい、下駄箱やスリッパが整ってい
る、トイレがきれい、夫婦仲が良い、社長
の出勤時刻が早い...とのこと。胸にスキ
ンと来るものがありますね。有意義な月
例会でした。

文／OHKUMA企画 大熊章悦

会員自己紹介

株式会社ワイ・イー・アール
〒542-0083
大阪市中央区東心斎橋
1-18-10 YERビル
電話 06-6258-9895
FAX 06-6258-9896
http://www.yer-jp.com/

こんにちは、株式会社ワイ・
イー・アールです。私たちは、
生命保険を中心に販売して
いるファイナンシャルプラ
ンナー集団です。 保険の営
業をしていると、とても不
思議な話を聞いたりします。

議に思うことがあります。
日本の保険加入率は世帯数
の約90%という高い数字に
もかわらず、加入されてい
る保険内容について尋ねると、
ほとんどの方が「わからない」
とお答えになります。不動産
に次ぐ高価な買い物、そんな
ことがあっていいのかと考
えさせられます。悪いのは保
険会社、いや、私たちはお客
様だと思えます。

保険と聞いただけで断る
方や、ひつこい・加入させら
れると思っておられる方が
多く、きちんと話を聞いて(聞
かせて)くだらない。それ

石山史雄の
このひじやあったらどうす
【第5回】
大沢金属工業

大沢金属工業の大沢正貴さ
んは、ベルト用のバックルづ
くりで日本有数の技をもつ
職人である。国内のベルトメ
ーカーの依頼を受け、デザイ
ンから型おこし、材料混合、
鋳物製造まで見事に仕上げる。
しかし、コストの安い海外製
品や海外ブランド品に押さ
れて受注が急減、生き残りを
かけて苦しい模索を繰り返
していた。

課題 自らの技術を活かして、
上手く新事業展開をされたが、
生業の域を出ていない。今後
は売れる仕組みづくりが必要
となる。ターゲットを設定し、
自社の技術や商品を紹介する
ツールの作成・活用が大切だ。

転機となったのは、「なにわ
名物開発研究会」との出会い
である。小型鋳物技術を活か
して新しいみやげ物ができな
いかと考えたのだ。街の特徴

新入会員

田中 基一
羽曳野市市議会議員

コマ太郎企画 佐藤 寿平
玩具コマの製作・販売企画業務

株式会社大和屋本店 石橋 利栄
観光旅館

掲示板

- 「中之島まつり」/5月3日~5日
- 「大阪ドームで草野球」
5月13日 23時20分集合
14日零時プレイボール。
出場&見学申込は4月28日迄。
株式会社ARSさん移転
大阪市東淀川区小松3-14-6
電話06-6323-5803
FAX06-6323-0253
- 富屋製菓有限公司、名誉会長水谷圭
一様が、1月20日96才にて永眠され
ました。ご冥福をお祈りします。

▲「日本一の保険代理店を大阪から」と、
想いをひとつにするメンバー。

文／青木 章

活動報告

広報部

産経新聞の新社屋を見学
デジタル化を実感!



▲記念写真を、その日の一面記事にレイアウトした「架空版」が、お土産として配られた

昨年8月に本社を浪速区湊町に移転した産経新聞大阪本社新社屋を見学させて

頂きました。はじめに新聞社の基本的な流れを説明するビデオを見て予備知識をたくわえ、各局の見学開始。編集局、写真報道局、制作局と見て回り各フロアで新聞社の担当の方に分かりやすく丁寧の説明をして頂き、

新聞の作成もかなりデジタル化が進んでいるのを実感しました。より早く、より正確に新しい情報を伝える為に動き続ける現場を見学して、翌朝の新聞がいつもと違った感覚で見れました。ちなみに私も産経新聞の愛読者です。

文／(有家福 原田勝則

2/8

活動報告

ビジネス交流部

「新会社法」は質問の嵐!
参加者は満足、講師は:

今年度の部会は、会社見学&勉強会という内容で開催されています。2回目の今



▲近所の会館で、「新会社法」のセミナーを実施。質問攻め、脱線につく脱線で、講師苦笑

参加者コメント



アスハ(有) 森田守亮
ネット経由の新聞を自宅でプリントして読む日も近い?

新聞社の情報収集力、整理・制作力、伝達能力の凄さを実感しました。新聞のレイアウトや見出しが、見やすく読みやすく工夫されていることを改めて痛感。そんな読みやすい新聞紙が、ネット経由で毎日自宅のプリンターから配達されると便利だろうなあ~と思いました。いずれそんな日も来るのかな。

文／(有家福 原田勝則

11/5

参加者コメント



HAPPY 灰谷幸
菓子工場の生産ラインは知恵と工夫の集大成!

菓子工場の見学は初めてなので、楽しみにしていました。お饅頭やスイートポテトが型からポンポン出てくる様子や、自動的に包装される工程は、ずっと見ていると飽きないほど。「なるほど」「すごい」と感心することの連続でした。玉子の白身と黄身を分ける方法は、参加者だけが知り得た企業秘密でしょうか。

回は、富屋製菓有限公司さんの工場を見学しました。その後、平成18年春に施行予定の「新会社法」についてセミナーを開催し、私が講師を務めさせていただきました。参加された皆さんは、この話題にとっても関心がある

のか日頃から疑問に思っておられたのか、質問の嵐(まるで学級崩壊...)。とても活発なセミナーでしたが、自分が話そうと練ってきた内容の2割程度しか話せなかった講師は、不完全燃焼に終わりました。

文／(有)リーガルアシスト 所 信昭

活動報告

まちづくり研究チーム

住民主導イベントが定着
学ぶことが多い小樽の町

札幌の雪祭りは全国的にも有名です。そこから車で30分ほどの小樽市では、住民主導で「雪あかりの路」という冬のイベントが行われています(今年は2/10~19)。研修旅行では、そのイベントの仕掛け人であり、蕎麦屋「藪半」の店主でもある小川原格さんのお話を伺



▲左から内田さん、小田切さん、大熊さん、野村さん、山下さん、野村さん。ほかに、杉本さん、水谷さん、山本(佳)さんも参加



▼紙コップを使ったメッセージキャンドル



▲趣向を凝らしたスノーキャンドルが町の随所に

参加者コメント



(有)アシスト 山下敦子
試行錯誤しながらの「町育」をお話の端々で感じました

自社の商品を紹介された小樽の皆さんは、その商品が大好きで、自信を持って、とても魅力的でした。「雪あかりの路」が定着するまでの苦労話などを聞いて感心する一方、「昔の良さが…」と嘆く声もあり、町興しの難しさも感じました。「ジギスカンキャラメル」は、怖くてまだ開封していません。

特別寄稿 小樽と
なにわ名物開発研究会の関わり

小樽市 総務部企画政策室主幹 木村俊昭

これからのまちづくりは、いかに元気な「ひと」を育成し、その人材ネットワークを構築して、政策を企画・実践するかです。なにわ名物開発研究会の皆さんは、野村さんをはじめ、正に人材であり、元気、やる気、根気、勇気を有する方々といえます。一緒にいると、できないことはない!と思え、不思議なくらい力が湧いてきます。いわゆる、これが、なにわマジックなのでしょう。ぜひとも



(撮影) 関満博教授: 一橋大学

小樽と大阪が連携して新たな事業展開を行いたいものです。まずは、二地域居住交流や子供たちの相互交流、ものづくり・芸術・文化交流などを通じて、「わがまちファン」づくり、未来の人財づくりを行ないましょう。どしどし、できることから企画・実践していこうではありませんか。

いに行きました。小樽に着くと、当会との交流も長い伊藤さん(伊藤染舗)が迎えに来てくれました。伊藤さんとともに雪あかりの路を見学しながら小樽市内を散策。夜は小樽市役所の木村さんも合流し、贅沢な北海道料理をいただきました。

最後に、お話の後にいただいた藪半の蕎麦が非常に美味しかったことを付け加えておきます。

文／西代官山クラブ 小田切 聡

2/14-15